

アマモ場の再生をめざして

藤原宗弘 主任研究員（増養殖研究部門）

アマモ場ってなにか、ご存知でしょうか？

アマモとは、砂地の浅い海底にみえる海草（うみくさ）のことで、アマモがたくさん集まった場所をアマモ場といいます。このアマモ場では、波や流れが抑えられて、陰ができて、魚たちの餌となる生物が多く、メバル、ウミタナゴ、クロダイ、マダイなど、多くの稚魚が育ちます。アマモ場を利用するのは魚だけではなく、イカもアマモに卵を産みつけます。



アマモ場(干潮時)

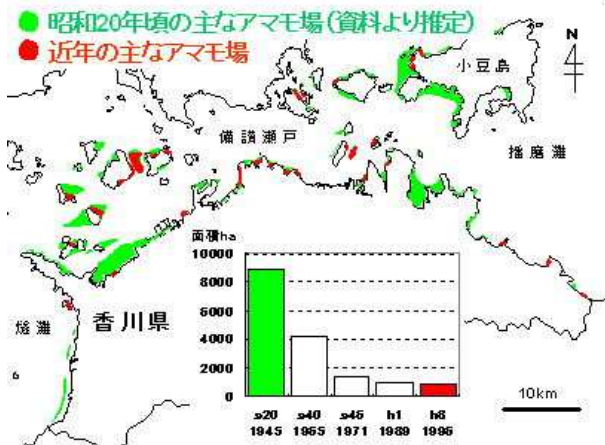


アマモに産みつけられたアオリイカ卵



アマモ場の稚魚(メバル他)

香川県にも昔は多くのアマモ場がありました。しかし、アマモ場は埋立てしやすい浅い場所だったので、高度経済成長期に埋め立てが進み、多くのアマモ場がなくなりました。このため、水産試験場では、アマモ場の再生をめざして、試験・研究が行われてきました。

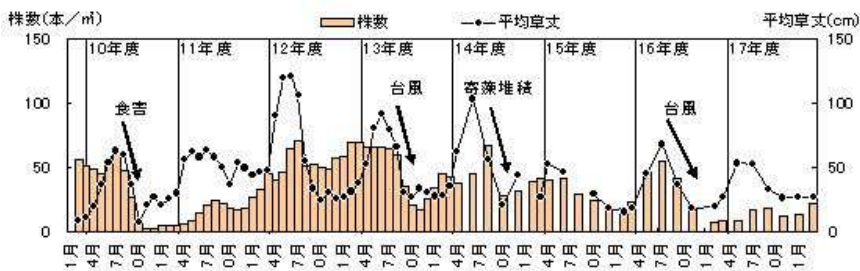


香川県海域でのアマモ場の推移

しかし、残された場所は、アマモの生育に適した場所が少なく、浅くても台風や季節風によって砂が移動してしまう場所や、海底の土がやわらかくアマモが生育しにくい場所といったアマモの繁茂には向かない場所が多く残りました。アマモを移植しても1、2年で枯れてなくなってしまい、なかなかアマモ場を再生することができませんでした。

そのため、どこか良い場所はないかと探したところ、消波離岸堤の浅い側であれば波が穏やかで、アマモが生育する可能性があると考え、あらためて試験・研究を始めました。ここでは長い期間アマモの生長が観察されました。しかし、台風など何年かに一度はアマモにとって悪い影響をあたえる現象が起こっていました。このような現象の繰り返しを乗り越え、今でも消波離岸堤の浅い側で、限られた面積ですが、アマモは頑張っ生きて残っています。

より静かで浅い場所が、アマモが生育できる適地です。今残っている貴重なアマモ場の保護は重要なことなので、少しずつでもアマモ場を再生していくことで、瀬戸内海が今以上に豊かな海になることにつながると考えています。今後はアマモ場だけではなく、それに続く干潟や海浜を含めた浅海域をひとつの場として考えていければと思います。香川県では、平成17年度からアマモ場造成(再生)の事業化を視野に入れた調査が始まりました。



アマモ生育状況(平成9年12月種子移植 さぬき市津田地区)

今まで得られた研究成果を取り入れて、効果的なアマモ場造成(再生)を行っていきたく考えています。そのためには、今アマモがどのあたりに、どのような状態で、どのくらいあるか、といった情報は非常に重要で、知っておく必要があります。

このようなデータを基に、「アマモ場をどのようにして再生し、どのように保護していくか。」を検討していく必要があると考えています。

皆さんの身近にもアマモ場があるかもしれません。ぜひ、見守っていただき、何かアマモに関する情報がありましたら、水産試験場までお寄せくださるようお願いいたします。